

次号予告

とびら ある2つの対話..... 横浜市大病院 大川 嗣 雄

特集=脊髄損傷

医学的にみたりハビリテーションの阻害因子..... 星ヶ丘病院 博 田 節 夫

脊損の車椅子..... 関東労災病院 一 柳 勝 治

四肢マヒ患者に対する Functional OT..... 洛東病院 森 永 憲 子

四肢マヒ患者の Pre-voc. OT..... 都心障センター 奥 野 ふみ子

Driver Training..... 国立身障センター 中 村 雄

脊損患者の心理的諸問題..... 国立心障センター 永 井 昌 夫

脊損患者の職業復帰..... 関東労災病院 南 健 次

講座 筋神経の生理学 (10) 九州リハ大 和 才 嘉 昭

フィンガーペインティング (2) 九大 内 村 静 子

研究と報告 Finger Function-Quotient (FQ) (その2)..... 宮城拓杏園 花 村 都
——CVA の調査結果について——

Stroboscope による片まひ歩行の分析..... 東大リハ部 土 田 精

海外だより Cosa Colina リハビリテーションセンターで

見たこと聞いたこと..... 伊藤病院 奈 良 勲

プラクティカルメモ Brachial Plexus Injury に於ける

Functional armsling の工夫..... 都心障センター 工 藤 俊 輔

編集後記

編集企画の時期には印刷完成時に対して期待と不安をもっていたが、いざ出来たものを手にすると著者の協力度がぐんと重さを増して長所ばかりが眼についた。

1つは来日中のスイスやドイツのPT女性が卒直に日本の職場やPT教育について意見を述べていることである。チームとしての相手職種への尊重さがまだ弱いこと、消化不良の表面的理論が目立つ教育内容とは、計らずも同一意見になったことから私も彼女達の適確な判断力に敬意を表したい。

ついで特集の精神科作業療法における作業分析では、研究グループの現状報告であり、今後の発展への方向性と協力者を求めるために役立つと思う。未完成なのは魅力的である。どなたでも作業

分析へ多方面から助言なり研究データーを持寄って下さり、日本でのオリジナルを作れたらと期待している。

最後に症例の検討と反省で永井昌夫氏が現在のリハビリテーション医学の比重について身障か又は精神障害かの偏向を指摘している。それが結果的には予防できる障害をも見逃してしまう危険をおかすことであるともいわれた。本当にその通りで「患者中心」ということを改めて考え直さなければならぬし、自分の実力で治療不可能な際の他の専門職への依頼を謙虚にしなければならないことを教えてくれている。このような点から今号もよくできたと著者の方々へ感謝している。

(鈴木明子)

編集顧問

天 児 民 和
九州労災病院長

五 味 重 春
府中リハビリ学院長

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科
(五十音順、以下同じ)

編集委員

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
都養育院リハビリ部

佐 藤 馨
神奈川県更生指導所

寺 山 久美子
都心障センター

野 本 卓
東医歯大理療室

鈴 木 明 子
府中リハビリ学院

福 屋 靖 子
東大リハビリ部

松 村 秩
国立リハビリ学院

編集同人

明 石 謙

赤 津 隆

内 村 静 子

梅 田 晃 昌

大 井 淑 雄

大 川 嗣 雄

大喜多 潤

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

谷 岡 淳

富 岡 詔 子

奈 良 勲

福 田 修

藤 本 欽 也

前 田 守

松 本 妙 子

三 島 博 信

横 山 厳

和 才 嘉 昭

(担当 細田・岩元・松橋)